

# 世界史の「判別」

## —「諳記」の要素を利用して授業を引き締める工夫の一例—

埼玉県立所沢西高等学校教諭  
鈴木 正弘

### 1. はじめに

埼玉県の県立高校で30年近くを過ごしてきた。そのうち20年以上を、新設校・定時制高校等で過ごしたので、大学受験を意識して授業を組み立てたことはなかった。現任校は、「少し進学を意識している、普通の普通科高校」。進学と課外活動とをバランス良く組み立てようとしており、生徒の学力は、受験勉強に堪えられるレベルにある。「受験」の要素を期待する生徒もかなりいる。こうした生徒の状況をふまえて、受験にも役立つように授業を組み立てようと考えた。

現任校に着任して6年。2年生の「必修世界史」(4単位)を中心に担当してきた。生徒に下手な質問などしていると話は先に進まない。講義中心で、生徒の満足する内容とレベルを構築しなければならない。また、少しは生徒を引きつける工夫もしたい。心がけてきた方策を整理すると、①授業プリントの作成(基本の作成に約2年間を要した)、②資料集を有効に活用する方法の検討、③「判別」と称すポイント攻略法の考案、④時事ネタ「新聞コラム」等「有意義な」話の活用、などを検討してきた。また、年間の授業のうちには、芸術史を折り込んだりして、政治史・社会史一色にならないようにしている。

ここで紹介する「判別」というのは、要するに「語呂合わせ」のことで、「お遊び」のようなものである。上位レベルの生徒には必要のないもの。しかし、中位レベルから下位レベルの生徒に役に立つように授業の要所に差し込む。しばらくして、「判別」を差し込むことによって授業の引き締まる効果に気付いた。

年度によっては3年生の「選択世界史」(2単位)をあわせて担当する。授業の中で何人かの生徒から、「2年生の時にやった判別をまとめてほしい」という要請を受けた。前年に筆者の授業を受けていない生徒も興味があるようなので少し整理してみた。ここでは、いくつかを例示して簡単な解説を付したい。

### 2. 二者択一の「判別」例

- ①ネアンデルタール人(旧人)とクロマニヨン人(新人)
  - 新クロ
    - ※残るネアンデルタール人は旧人
- ②ラスコー(フランス)とアルタミラ(スペイン)
  - フランス・ラスコー
    - ※残るアルタミラはスペイン
- ③ギベリン・ゲルフ
  - 皇帝ペンギン、皇帝ペンギベリン
    - ※残るゲルフは教皇党
- ④ジズヤとハラージュ
  - ジズヤ、人頭税(じんとうぜい)
    - ※残るハラージュは、地租

**解説** 「判別」とは、「はっきりと区別すること。みわけること。識別」(『広辞苑』)であり、当初2つの極めて紛らわしい事柄を区別するためのものと考えた。①のネアンデルタール人(旧人)とクロマニヨン人(新人)の判別は、まず「猿・原・旧・新」を覚えさせ、次に提示するものである。「新クロ」とは、筆者の場合には「シンクロナイズド・スイミング」のイメージである。要はなんでもよい。クロマニヨン人を新人と押さえられれば、ネアンデルタール人を旧人と押さえられる。③のギベリン・ゲルフの判別は、若い頃に語源を知りたくて調べたがよくわからず、引っかかっていたもの。「こんなのを出题するのはへば、しかし引っかかると悔しい」として「判別で一切り」と言って提示する。ここは真面目にやっても笑いを誘う場面である。

### 3. 二者の「判別」例

- ⑤ローマ法(ポイント)
  - リキニウス=セクスティウス法：二人に一人は平民なり

○ホルテンシウス法：平民会は天の声

⑥法顕『仏国記』・義浄『南海寄帰内法伝』

○法顕仏国・義浄内法

※「法」を1回ずつ、始めと終わりに使う

⑦中世の主要大学

○ボロな法学、ナサレ(ル)の医学(ナザレのイエスに引っかけて)、あとは神学

⑧エセン=ハン、アルタン=ハン

○オイラート部：おいら偉(えら)いぞ、エセン=ハン

※「えへん」と威張る

○タタル部：タタル、韃靼(だったん)、アルタン=ハン

⑨ジャワ・スマトラの王朝

○シュリービジャヤはジャワじゃない(つまりスマトラ)

○シャイレンドラは(スマ)トラじゃない(つまりジャワ)

**解説** 2つのものをできればセットで押さえたい。できれば内容も連想させたい。そうした例である。

⑤のリキニウス=セクスティウス法とホルテンシウス法。どちらも馴染みのない人名によるものであり、諳記するのは難しい。他のものも同様である。ここに掲げたものは、比較的評判の良かったものである。特に⑨の東南アジア島嶼部のシュリービジャヤとシャイレンドラ朝の「判別」は、馴染みのないところなので、おもしろさもあってか有効であった。生徒にとって押さえるポイントが明確となったように感じた。

#### 4. 三者以上の「判別」例

⑩アッシリア後の4カ国

○メディカル・再履(サイリ)

※再履は再履修のこと。やっちゃった

○アナト(リア)・リディア

○かれい(華麗)なカルディア・空中庭園

⑪アテネの三政治家

○ペイストラトス、トラより偉い

○クレイステネスが陶片くれた

○テミストクレスに、更にミス無し

⑫四人のイーブン

○バットウータ：バットウータ、至った三大陸

○ハルドゥーン：遙かな世界史、『世界史序説』

○シーナー：知らない医学はアブナイよ(アビケンナ)

○ルシュド：アリストテレ・ルシュド(苦しい?)

⑬産業革命繊維関係の発明

①ハーグリーブス妻愛す：ジェニー紡績機

※ジェニーは妻の名(異説あり)

②アークライトは水軽く：水力紡績機

③クロンプトンはクロスする：ミュール紡績機

※ミュールはラバのこと。①②の長所をかけ合わせる

④カートライトは力織機：力織機(動力織機)

**解説** 3つ以上のものを「判別」しなければならない場合も多数ある。一つ一つはただの語呂合わせ。セットにして押さえさせることによって、効果を出したい。⑫の「四人のイーブン」は馴染みのないものを効果的に「判別」する例。また⑬の「産業革命繊維関係の発明」は、わかっていて当然というもの。しかし、これを覚えるのに汲汲とすると、肝心なことを見失う恐れがある。したがって、「判別」によって、諳記の労力を軽減し、主たる課題に労力を割かせるようにした。

#### 5. おわりに

以上、「判別」のいくつかを例示して、特徴的な点を解説してみた。覚えづらそうなところで、「黄門様の印籠」のように出すのもよいし、さらっと示すのもよい。思った以上に役立っている。

改めていうまでもないであろうが、ここに示した「判別」は、歴史教育を効率的に進める方便の一つである。ささやかな工夫ではあるが、「世界史」と生徒との距離を少し縮めることができたように感じる。「世界史の未履修問題」は、「世界史」という科目の困難さを炙りだした。「内容の精選」も進んでいるようには思えないし、便乗して「世界史」を変質化させようとする動きもあるようである。一教師にできることはささやかである。しかし、授業を楽しむながら、一步一步進みたいものである。